

広島県中小企業団体中央会 2021年4月分情報連絡一覧表

※本調査は5月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する5月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

●食料品

広島県東部菓子商工業協同組合

今月の売上は前年同月比4%減少。

前年同月の売上が多かった分、少し落ちた印象である。

多くの人が職をなくしたり所得が減ることで、個人消費が下がる。

ワクチン接種が進まなければ、経済も良くならない。

中国醤油醸造協同組合

4月の出荷量は前月比0.4%減少、前年同月比6.3%減少となり、売上高は前月比6.0%増加、前年同月比1.0%減少となった。

(繊維・同製品)

●繊維工業

広島アパテック協同組合

見通しは依然として良くない。

防護服、マスクは在庫過多からメーカーからの受注数も総じて少なく、生産が止まっている。

広島県織物構造改善工業組合

受注に関しては、少しずつ引合がきており、上向いている。この先、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第で、不透明ではあるが、徐々に回復していけばとの希望的観測を持っている。

(木材・木製品)

●木材・木製品

福山木材協同組合

今後、木材不足で売上減は避けられない。

広島県木材協同組合連合会

<全国>

- ・令和3年3月の全国の住宅着工戸数は71,787戸で前年同月比1.5%増加
- ・季節調整済年率換算値では880千戸(前月比9.0%増加)
- ・利用関係別では、持家は22,340戸で前年同月比0.1%増加、貸家は27,245戸で同2.6%増加
- ・分譲住宅は21,824戸で前年同月比2.8%増加
- ・木造住宅着工は39,008戸で前年同月比2.8%減少
- ・住宅着工動向は前年同月比21ヶ月ぶりの増加となったが、回復の兆しがある訳ではなく、新築マンション内装の着工が多かったことが大きい要因とみられており、今後の動向を注視していく必要がある。

<広島>

- ・3月の着工戸数は1,512戸で前年同月比1.1%減少
- ・内訳としては持家は417戸で前年同月比12.0%減少、貸家は569戸で同2.2%増加、分譲は526戸で同5.6%増加と県全体の住宅着工の動向は2ヶ月連続の減少となった
- ・地域別では、広島市が897戸で前年同月比28.9%増加の一方、福山市は246戸で同6.5%減少、東広島市は117戸で同6.4%減少、呉市は42戸で同47.5%減少、廿日市市では30戸で同73.7%減少と地域間で差が見られる

コロナ禍により景況の停滞状況が長引く中、北米・中国等の好調な住宅需要で外国産木材製品の輸入量減少や価格高騰、世界的な海上コンテナ不足や海上運賃の上昇、外材の品薄感による国産材丸太の単価上昇など市況は混沌としている。木材製品が入手しづらいとの声や先行き不透明で資材不足とコスト高で経営に関わる事態を懸念する声もあり、今後の需給動向をしっかりと注視していく必要がある。

ひろしま木材事業協同組合

輸入木材の高騰と供給不足により、市場では国産材原木であるスギ・ヒノキ等を含めた木材市況が過熱しており、「第3次ウッドショック」と呼ばれる状態となっている。需要の拡大により高値を更新している北米市況に、世界各国の市況が連動している。

世界的な木材価格の暴騰により、国産材の製品や丸太についても需要が高まり、関連各社は在庫の確保に注力している。

広島県内のプレカット業者においては、輸入木材が不足している為に前年を超える受注があったとしても加工ができず、住宅業者や工務店に対して受注制限せざるを得ない状況になっている。

(印刷)

●出版・印刷・同関連

広島県印刷工業組合

緊急事態宣言が発出されたと同時に、そのエリアからの仕事が止まっていく。

なんとか知恵を絞り、前へ進めていく道を探り、今は耐え忍ぶのみである。

外部環境の影響を受けにくい、強い印刷業を模索していきたい。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

原材料サプライチェーンの混乱が続く。

得意先からは津波など自然災害も想定して、代替生産できる体制を要求されている。

全製造拠点のBCP体制の大幅見直しが急務である。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

自動車関連は、売上は横ばいであるが、世界的な半導体不足、コロナ等で、不安定要素が多く減少傾向が予測される。日用品関連は、コロナ特需対応品が繁忙状態。医療関係は、横ばい状態。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況(24工場)

R3年4月2,861m³(前年比4.8%減少)

R3年3月3,251m³

R2年4月3,004m³

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

靱鉄鋼協同組合連合会

4月に入り、5月から新たに雇用調整助成金の利用を検討したい旨の相談が3件あるなど、今後の見通しは暗い。

近くの大手造船所が小型の内航船の建造に参入するという話もあり、当会所属員の活動への影響が懸念される。

団地内でも新型コロナウイルスに感染した労働者が出た。身近なところまで迫ってきているのを感じる。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、期末対応の反動やコロナ禍の影響で国内外の設備投資に対する意欲の低下により前月比で55%減少、前年同月比は25%減少となった。

外需主導で景況感は回復傾向にあるが、新型コロナウイルス感染再拡大により、通常の活動が難しくなる懸念がある。

(電気機器)

●電気機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合(電気機械器具)

今月の売上は、中国向けの受注案件が多く、売上の増加につながり、前月比変化無し、前年同月比15%増加となった。

半導体製造装置メーカーからの部品の受注が増加中である。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具(自動車)

東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度が高い主要顧客(マツダ)の業況(生産台数)に比例している。

- ・4月の国内自動車販売台数は全需が350千台、前年同月比29.4%増加と7ヶ月連続の前年超え。
登録車は前年度同月比22.2%増加と2ヶ月連続の前年超え、軽自動車は同42.0%増加と7ヶ月連続の前年超え、マツダ車は同10.8%増加と4ヶ月振りの前年超え
- ・アメリカの3月の全需は1,605千台で前年同月比62.1%増加と急回復。マツダ車は同104.2%増加と、前年同月を大きく上回り回復となった。
- ・欧州の3月の全需は1,024千台で、前年同月比47.5%増加と6ヶ月振りに前年を上回った。マツダ車は同32.2%増加と15ヶ月振りに前年同月を上回る結果となった。
- ・中国の3月の全需は2,520千台で、前年同月比73.9%増加。マツダ車は同44.5%増加と2ヶ月連続の前年超えとなった。
- ・上記各地域の状況下、マツダ車の3月の海外販売合計台数は117千台、前年同月比60.3%増加で前月に続き、前年超えとなった。
- ・マツダの3月の輸出台数は前年比31.0%増加と4ヶ月振りの前年超えとなった。
- ・マツダの3月の国内生産台数は、前年同月比19.1%増加と3ヶ月振りの前年超えとなった。

●輸送用機械器具(造船)

中国地区造船協議会

県内2,500総トン以上の令和3年3月の船舶建造許可実績は3隻283,200総トンであった。(前月2隻56,400総トン、前

年同月6隻239,900総トン)

なお、この3隻は輸出船で、貨物船であった。

(一社) 中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化はない。

(卸売業)

●卸売業 (総合)

協同組合広島総合卸センター

景況感にやや好転が見られるものの、全般的に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、先行き不透明感が大きい。業界業種ごとにバラつきも見られる。

「雑貨」においては、生活必需品、医薬品関連とそれら以外（観光など）で明暗が分かれた。

「資材」においては、製造業の復調が牽引し設備投資に回復の兆しが見られ全体的には好転している。

「食品」においては、新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、外食の客足が本格的に回復するには時間を要する見込みである。巣ごもり消費（中食、即席麺や冷凍食品）は堅調に推移している。

「繊維」においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響による外出機会の減少・在宅増加を背景に需要が低迷しており、昨年来の在庫負担が重荷になっている。

債務弁済の開始や業務プロセス見直し等に対する金融支援に注視していく必要がある。DXのインフラとなるIT投資、働き方を含めた「新常态への適応」の進捗が進んでいるとはいいたい。

●卸売業 (食料)

広島県東部食糧協同組合

取扱商品である小麦粉、砂糖、食用油、大豆、でんぷんなどが一斉に大幅値上げとなり、コロナ禍への対応に加え、価格変更にも苦戦している。

●卸売業 (電設資材)

広島県電設資材卸業協同組合

2月新築住宅着工は前年比6.9%減少であったが、持ち家は同8.8%増加と伸びている。

非住宅の物流、工場関係の設備投資が順調である。

●卸売業 (家具)

リビズ株式会社

新型コロナウイルス感染拡大による巣籠もり需要は終わりつつある。

●卸売業 (畳・敷物)

広島県藁製品商業協同組合

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり販売量、取扱量ともに明るい兆しが見えない中、びんご特撰及びJAS畳表の3月の販売数量が思うように伸びず、困惑していたが、4月に入り、その反動からか前年同月を上回る実績となった。コロナ禍で営業自粛のなか、先行き不透明感から一時期買い控えがあったものと見られる。

これから梅雨時期となり、販売量の減少が予測される。出来れば、順調に伸びてほしい。

(小売業)

●各種商品小売業

広島生鮮三品連絡協議会

中央市場における4月の取扱高は、水産部が前年実績を超えるもコロナ禍以前の8割の水準、青果部は入荷が前年を上回ったが消費の冷え込みから単価が下がり、前年の8割に落ち込んだ。

飲食に人が戻り始めた頃、新型コロナウイルス感染拡大の第4波で外出自粛となり、再び飲食・宿泊業者に向けた販促活動が出来ない状況になった。閉塞感が蔓延しており先行きに対する不安を感じる。

巣ごもり需要はひと段落し、一時の活況は無く、ますます先行きに不透明感が増している。

大手は、顧客の引き留め策を模索しており、コンビニ、ドラッグストアやネットスーパーなどが、週末のまとめ買い客を奪い合い始めた。

協同組合三次ショッピングセンター

今期の売上は、前年比11.8%増加となったが、一昨年比では8.8%減少となり新型コロナウイルス感染拡大の影響は続いている。ただし、食品に関しては昨年、一昨年並の売上を維持している。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比1.2%増加となった。商品別では、薄型テレビ同8.3%増加、冷蔵庫同0.3%減少、洗濯機同17.5%増加、IHクッキングヒーター同6.2%減少、エコキュート同1.0%増加、エアコン同0.5%減少となった。

●その他の小売業 (燃料)

広島県石油商業組合

前年同月比では販売量が増加しているものの、利幅の縮小から収益状況は悪化している。また、仕入価格の乱高下から、販売価格の値決めにも苦慮している。

(商店街)

●商店街 (各種商品小売業)

呉本通商店街振興組合

日用品が売上の多くを占めており、飲食店の数も少ないことから、全体として、新型コロナウイルス感染拡大の影響による大きな変化はなかった。

4月20日から新型コロナウイルスのワクチン接種の予約が始まった。日常的にパソコンを利用している者は、予約を簡単に行えたが、利用していない者は、電話や直接市役所に出向いての予約となり、困難な様子であった。

(サービス業)

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比14.5%減少、前年比8.4%減少

車検場収入は、前月比13.5%減少、前年比6.0%減少

重量税・登録印紙の売上は、前月比17.3%減少、前年比5.6%増加

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

前年同月と比べると変化が見られないが、一昨年と比較すると大幅に減少している。

イベントの自粛もあり、引き続き、受注は厳しい状況である。

●警備業

広島県警備業協同組合

人員不足が続いている。

(建設業)

●工事業

福山地区電気工事業協同組合

4月分の工事受付件数は前月比13.0%増加、前年同月比9.3%増加となった。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響が収まって景気が上向くことを期待する。

広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロスの3品目合計について、4月度は前月比61.9%減少、前年同月比49.1%減少となり、ここ5年間の月別売上実績でも最低で、かなり悪い状況での年度スタートとなった。

公共工事、大型工事はほぼ計画通り建築が動いているが、中小物件では計画の見直しも出始めている。飲食やサービスの業種以外でもコロナ禍の影響が、設備投資に徐々に出てきている。

神辺建設業協同組合

人手・人材不足が起きている。

先行き不安感を感じる。

(運輸業)

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

4月も新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けて、荷動きが停滞した。原油価格の上昇により、国内の燃料価格も上昇して、それに加えて運賃の低下もあり、収益が悪化した。

●道路貨物運送業

松永地区トラック事業協同組合

4月の売上高は、前年同月比では増加したが、前月比では大きな変化はなかった。

4月上旬は荷動きが悪かったが、中旬以降は持ち直して前月並みの売上を確保できた。

新型コロナウイルス感染症の再拡大による影響かは分からないが、関西方面からの返路貨物が減少している。4月の最終週から荷動きが鈍化しており、GW明けまでは荷動きが止まると予想される。

軽油価格が2月から毎月上昇しており、今後、運賃値上げの要請も考えなければならない。

中国カーゴ軽運送協同組合

基本的に2~3月が忙しく、毎年4月は3月に比べて売上が減少する傾向にある。

昨年と比べるとやや回復傾向にある。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進んでいると同時に若年船員が育っていないため、船員不足である。

運賃、用船料の改善が見られない。

(その他)

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前月比、前年同月比とも不変である。

依然としてコロナ禍の不動産鑑定業界への影響は少ない。

不動産市場については、コロナ禍の影響による先行き不透明感はあるものの、株価上昇等の景況感もあり、横ばいないし上昇傾向にある。